

流山 九条ニュース

「九条の会・流山」事務局

阿部 7140-7605 石林 7154-7511

齋藤 7143-0374 三原 7152-6559

2010.8.1 NO.53



「九条の会・流山」HP: <http://www.nagareyama9.org/>

メール: info@nagareyama9.org

戦争を深く考える機会となった7月学習会

読谷村民の証言ビデオを観て意見交換

7月19日、九条の会・流山の学習会が開かれ、沖縄戦の証言ビデオの上映と意見交換を行いました。

ビデオでは、軍命に従ったジャングル内の逃避行、飢え、餓死、ガマ(洞窟)での集団自決の様子を、村民たちが語ります。また、子どもや女性を含む村民35名が日本軍に虐殺されたトノキヤ事件の証言も。

以下は、意見交換で出された感想の一部です。

こうした悲惨な体験をした人々に基地を押しつけ続け、今また新たな負担を強いようというのはとても残酷なこと／沖縄に犠牲が集中され、にもかかわらず本土の市民がそれに鈍感である背景には、琉球処分、本土防衛の捨て石作戦、国体護持と引き替えの沖縄売り渡し等々と続いてきた、歴史的な沖縄差別があるのでは／日本軍の残虐行為など、人が人間性を失ってしまう背景には、政治や教育の大きな影響がある／菅首相が語る「抑止力」論は、広島・長崎への原爆投下を正当化する理屈でもあり、許し難く、破産済みの議論／日本の航空管制権のほとんどが米国に握られていることなど、日米同盟の異常な事実を人々に語っていく必要がある／虐殺事件の生き残りの女性が、傷跡や家族の精神疾患などを理由に地域から差別された事実は、人間の弱さを示しており、戦争を引き起こす背景とも無関係ではないのでは等々。事実を知り、まわりの人に伝え、みんなで考え、非戦の思想を深く耕し、平和の世論をさらに大きく広げていきましょう。(阿部治正)

「ジョー・オダネル写真展」と「黒坂黒太郎コカリナコンサート」を鑑賞して

若い米軍の兵士が記録したヒロシマ、ナガサキ、焦土の日本、そして300枚のネガ。あまりのむごさから本人によって封印され、長い時を経て公開されました。ポスターにもなった1枚の写真<死んだ幼い弟を背

負い、火葬の順番を待つ少年のいたいけな姿>は戦争の悲しみを痛烈に伝えます。その写真展のオープニングコンサートで初めて、木製の楽器コカリナの演奏を聴きました。

市や、教育委員会が主催や後援に名を連ねているだけあって、文化会館はほぼ満席、華やかな女性たちも多く、私たちの集会とは少し雰囲気が違うようでした。



コカリナのやわらかく澄んだ音色は、心に染み入りました。特に、黒坂さんが南京で現地の学生たちと交流し、彼らが複雑な思いを一瞬のうちに乗り越えて、コカリナの演奏に感動してくれたお話の後、被爆した榎の木で作られたコカリナで、『アメージンググレイス』が演奏された時には、私は感極まりました。周囲から鼻水をすすり上げる音が聞こえ、目を拭う様子が見えました。黒坂さんの謝罪を込めた南京コンサートのお話は、コカリナの優しさに包まれて、聴衆に静かに受け入れられ、会場は何度も暖かい拍手に揺れました。

私は、今回、写真と音楽の力に圧倒されました。目と耳からずっと入り、いつの間にか心に刻み込まれます。私たちの活動に、もっと取り入れてもいい要素かも知れませんね。

これらの催しに、9条の会の一員の白木恵委子さんが童話『ことりになったエノキ』の作者として登場され、作品の朗読もありました。ここには、やはり言葉の力も厳然としてありました。

私は、自分がまだまだ、伝わる言葉を持たないことを思い知らされました。相手の胸に届く自分自身の言葉を持たなければ…。(土屋美代子)

定例駅頭宣伝

8月は9日(月) 15:30~16:30

流山おおたかの森駅

カンパはこちらの郵便振替口座へ

00130 - 5 - 464735 口座名 九条の会流山

戦争と平和 2010年夏の特集番組

日本のマスメディアのことなかれ、時の権力への媚、マスコミとしての使命感のなさなどが批判される中、夏には価値あるテレビ番組も見られます。そのリストの例(東京の知人が作成したもの)をご紹介します。ご利用下さい。

8/1

NHK教育(後10:00)ETV特集「シリーズ 安保とその時代」

第1回 日米安保ルーツを探る

日本テレビ(深夜0:50)シリーズ戦争の記憶「奪われた故郷北方四島・元島民の65年」

8/6

NHK総合(前8:00)「広島平和祈念式典」

NHK総合(後7:30)「吉永小百合 平和への絆～原爆の事実を語り継ぎたい!」……20年以上原爆詩の朗読に取り組んできた吉永小百合はその集大成として、多くのミュージシャンも参加する「事実を語り継ぐ会」をNHKホールで開く。

NHK総合(後10:00)……NHKスペシャル「封印された原爆報告書」……アメリカ公文書館のGHQ機密資料から原爆被害の調査報告書が発見された。なぜ調査結果を被害者のために活用しなかったのか、日米の思惑に迫る。

8/7

NHK総合(後8:00)「幻の甲子園～戦時下の球児たち」……1942年、夏の大会が行われました。球児たちは大会後、戦場へ送られ、戦意高揚のために利用されました。

NHK衛星ハイビジョン(後8:00)「二重被爆 山口彊さんの歩んだ道のり」……今年長崎で亡くなられた山口さん(93歳)は広島、長崎で2回被爆した。なぜ被爆体験について沈黙を続けたのか、本人のインタビューでその人生を描く。

NHK衛星(深夜0:00)「核戦争はこう想定された～ソビエト最大の核演習”スネジョーク”」

8/8

NHK総合(後9:00)NHKスペシャル「証言記録 シベリア抑留」

NHK教育(後10:00)ETV特集「シリーズ安保とその時代 第2回 60年安保闘争」

日本テレビ(深夜0:50)シリーズ戦争の記憶「ソジティメンソールある日系米兵の沖縄戦」……沖縄戦の渦中で、アメリカ軍情報部の日系語学兵は壕に閉じこもる人達に沖縄ことばで投降を呼びかけた。「ソジティメンソール」とは、「出てきて下さい。」の意味。

8/9

NHK総合(前10:05)「被爆者の子に生まれて～肖像写真100枚に込める”2世”の決意」……長崎のカメラマンが撮る被爆2世の肖像写真。カメラマンの活動を入口に、2世たちが原爆の記憶をどう継承するかを考える。

NHK総合(前10:40)「長崎平和祈念式典」

NHK総合(後10:00)「生命(inochi)～孤高の画家・吉田堅治」……金箔や銀箔を配した輝く色彩と大胆なフォルム、ほとんどの作品のタイトルは「いのち」。彼の絵の原点は海軍航空隊での体験、亡くなった戦友たちの鎮魂のために描いた。命を描き続けた画家の心の旅をたどる。

NHK衛星ハイビジョン(後8:00)「被爆した女たちは生きた～長崎県女、クラスメイトたちの65年」……長崎の三菱兵器工場で勤務員中に被爆した長崎県立女学校の生徒たちの人生、そして80歳を迎えようとしている今の思いを伝える。

8/10

NHK総合(後10:00)「シンドラーのトランク～ユダヤ人を救った男の戦後」

8/11 朝日系(後1:20)「徹子の部屋 終戦特集 東京大空襲を体験した加藤武さん」

NHK総合(後10:00)「戦争紀行ドキュメンタリー”わらわし隊”の戦争」

NHK衛星ハイビジョン(後8:00)「王道楽土を信じた少年たち」……太平洋戦争末期、長野県から少年たちが満蒙開拓義勇軍として大陸に送られた。生き残った元隊員、元教師の証言を通して少年義勇軍の実像に迫る。

8/12

朝日系(後1:20)「徹子の部屋 終戦特集 モンテルパの会植木信吉さん」

NHK総合(後7:30)「爆笑問題の戦争入門」……「爆笑問題」が「戦争を知らない1億人」の代表者たちと「戦争を知っている2千万人」の代表者たちと戦争論を展開する。

NHK総合(後10:00)「NHKスペシャル 玉砕～封印された”全滅”戦への軌跡」

8/13

朝日系(後1:20)「徹子の部屋 終戦特集 海

軍特別攻撃隊で訓練を受けた千玄室さん」

NHK総合(後7:30)「カラーでよみがえる第二次世界大戦」

8/14

NHK衛星(深夜0:00)「戦争が残すのは……”マンガ”が伝える戦争の真実」……「はだしのゲン」の作者をはじめ著名な漫画家へのインタビューや作品を通して、2度の世界大戦、アメリカ同時多発テロを経て、戦争マンガの内容と役割がどのように変わってきたかをさぐる。

NHK総合(深夜0:20)「戦地からの手紙～あなたは知っていますか?」

8/15

NHK総合(後9:00)「終戦特集ドラマ 15歳の志願兵」……舞台は、旧制愛知一中(現旭丘高校)「軍国少年」がつくられていく経過をドラマ化。

TBS系(後9:00)「帰国」……8月15日の深夜に戦死した兵士たちがよみがえる所から物語は始まる。脚本 倉本聰、出演はビートたけし、小栗旬ほか。「国のために死んだ彼らが、今の日本に何を見るのか。」

NHK教育(後10:00)ETV特集「安保とその時代 第3回 密約がつないだ同盟関係」

日本テレビ(深夜0:50)シリーズ戦争の記憶「平和公園に眠る町 65年ぶりに甦る故郷」

8/22

NHK教育(後10:00)「ETV特集 敗戦とラジオ 放送はどう変わったのか」

*ここで紹介した番組は7月半ばの時点で発表されているものです。番組名が変わることもあります。

確かな変化 平和への願い

「被爆体験 沈黙破る時」 朝日新聞 7/29

朝日新聞は「被爆65年アンケート」を実施、2005年以降に被爆体験を初めて家族以外に話したという人が3割にのぼり、「語り伝えが核兵器を使わせない力になる」とした人は8割近くになった。惨劇を繰り返すまいと、原爆投下から60年以上たった被爆証言に踏み切る人が相次いでいる。

米英仏も広島の平和祈念式に出席の意向を示しているといい、国連も潘事務総長が広島と長崎を訪問する。国際的な変化も含めたこうした平和への願いが確かに人々の心を動かしているのではなからうか。